

ウクライナからの視点

拓殖大学 海外事情研究所
名越 健郎

1、プーチン大統領のウクライナ観

- 「クリミアはロシアの固有の領土といわれている」
- 「ウクライナ南東部は18世紀の戦争でロシア領となり、ノボロシアと呼ばれたロシアの歴史的領域」
- 「クリミアをウクライナ領に変更した1954年のソ連の決定は違憲」
- 「ボリシェビキは1920年代に不当にロシアの領土をウクライナに編入した」
- 「ウクライナは国家と呼べるものではない」

2、ポロシェンコ大統領の反発

- 「違法な住民投票も、クリミア占領も認めない」
- 「クリミアは過去も現在も未来もウクライナ領」
- 「対ロ関係を左右するのは経済問題でなく主権問題」
- 「親ロ派の正統な対話相手が必要だ。武装勢力とは対話しない」

3、ウクライナの混迷

政府軍の戦死者1000人突破、社会に動揺
経済危機、エネルギー不足が深刻化
東部工業地帯が麻痺、ロシアへの輸出が激減
国家意識が高揚、「脱露入欧」が定着
NATO加盟支持が60%に、EU加盟は80%。
ポロシェンコ人気は低下中

4、ウクライナ問題の行方

停戦合意でも履行困難
「プーチン大統領の決断次第」（ウクライナの識者）
ロシアは長期戦を狙う。NATO・EU加盟を阻止
人口減、東西対立続き、分割の危機
中国がウクライナに関心、昨年12月に友好協力条約調印
欧州外交の失敗であり、日本は距離を置くべき

以上